

7月・9月は…

## はじめての水あそび 毎開催日 10:30 ~ 11:45

ちやぶちやぶ、パシャパシャ♪お水って不思議だね。

つかもうと思ってもつかめない。

さわってると、冷たくって気持ちいいね。

お水を使って気軽にあそべるいろんなやり方、試してみない?

はじめて公園でお水あそびする子も、一緒に楽しもう!



### 参加する方へ

- あそぶと、手足、服、靴が汚れます。親子ともに、汚れても構わない服装で来てください。タオルや着替えが何組かあると安心です。
- 違うことをしてあそびたい子は、無理に企画に参加せず、したいことをしてあそんでね。



from  
おひぴょワゴン

## あそび心のスイッチどこだ?

5月は「草花であそぼう」の企画。みんなでおさんぽしながら、いろんな草花や虫と出会いました。

おひぴよに初めて参加した1才半の〇君。慣れない場でちょっと緊張したのか、立ち止まつたままです。

「この中に〇君がいいな~と思うもの入れていこうか!」と手渡されたのは、牛乳パックで作った手作り虫かごでした。大切そうに首から下げるとき、気持ちが切り替わったのか、目がキラキラと輝き始めました。歩き回って、見つけたものをどんどん入れていきます。葉っぱや木の枝、石ころ…どれも〇君が「いいな」と思えるものばかり。気がつけば、みんなの先頭をきって歩いています。「これ全部〇君がとったの~?」と聞かれ、誇らしげな表情です。その後、まわりのお友達に1つずつ配っていきます。自分の見つけた「いいもの」を、みんなに見せたくなったんだね。満足そうな笑顔でした。

ちょっとした物や道具があそびはじめのきっかけになります。それは、お店で買わなくても、身近にあるもの・手作りで十分。作るのをそばで見ているのもワクワクが膨らみますね。

## シリーズ「はじめての〇〇あそび」

「はじめての〇〇あそび」は、外あそびを始めたばかりのちびっこ親子が、実際にあそびながら「外ならではの楽しいあそび」「大人はどんな風に見守ればいい?」を体験できる時間です。

スタッフが一緒にあそぶので、はじめての人も安心。心配なこと、わからないことがあつたら声をかけてね。



- 10月・11月 「はじめての枯葉あそび」
- 12月・1月 「はじめての音あそび」
- 2月・3月 「はじめての風あそび」

### Yondemi?

## おすすめBOOK

たのしくあそんで

こどもはそだつ0123

NPO法人 あそびっこネットワーク

あそびっこネットワークが、外あそびの冊子を作成しました。子どもたち目線になってあそびの様子を覗いたり、なぜ外あそびがおススメなのかを、イラストや写真でわかりやすくまとめました。この本を読んだみんなが「よし、明日から私も外あそびでかけてみようかな」と感じてくれると嬉しいです。

あそびっこネットワークが開催するあそび場で無料配布しています。



## 夏も外あそびをオススメする理由。

夏は熱中症が心配だから、蚊にさされちゃうから、暑くて大変だから…外であそびづらいと言う声を聞きます。確かに、暑さや蚊などを完全に防ぐことは難しいけれど、ちょっとした対処法やコツを知っていれば、より快適に過ごせますよ。冷房の効いた室内より、木陰で時折吹いてくる風はとっても心地よく、お外でも場所を選べばこんなに涼しいんだな~と感じられます。夏だって子どものエネルギーはパワフル全開。暑いからってあそばないでいるられない! 夏には夏の楽しさや出会いがたくさんあります。毎年やってくる夏を、とことん楽しめる方が、絶対楽しいよ!

### 赤ちゃんだって…

汗をかく力など

日本の気候にあった身体機能を発達させているよ。



こまめに拭いてあせも予防  
濡れタオルだと気持ちいいね  
着替えもたくさん持つていこう



### 熱中症で気を付けるポイント

- こまめに水分補給
- 日陰で休憩!
- 顔がほてったり、青ざめていないか?
- 元気であそんでいるか?
- スタッフも一緒に見守るよ!



## みんな知りたい自己肯定感の育て方。

なんて難しいテーマなんでしょう。どの親も子どもには自分を大切にしながら生きていいってほしいと願うと思います。そのために自己肯定感を育てなきや、でもいittaiどうすれば育つのかな…。先日そのヒントになりそうな、ある場面に出会いました。

子どもが木の枝を拾いお母さんの方を振り返りました。お母さんは「おっ、いい枝拾ったね」と声をかけました。するとその子はもう一本拾ってまた振り返る。「おっ、さっきのより太くてかっこいいね」。その子のやる気がみるみるみなぎってきて、次々に枝を拾い集めてきます。その姿は、ぼくこんなに集められるよ! こんなに運べるよ! と自信とエネルギーに満ち溢れています。「たくさん集めたね!」と

声をかけられたその子は、絵にかいたような「ぼくってすごい!」という満面の笑みをうかべました。もしそこで「危ないから捨てなさい」と言っていたら、どうなっていたかな。

育児本にもよく、自己肯定感を育てるために必要なのは特別なことではない、と書かれています。ほんとにこういう何気ない大人の声かけや眼差しの中に、子どもたちの心を育てるエッセンスが詰まっているでしょうね。さて、自分は普段、子どもにどんな声をかけているかな…。

